

# 教育普及グッズ「やちむんトランプ」、 「やちむんトランプ かいせつカード」について

金城 有希乃

はじめに

博物館の基本となる業務には、展示、整理・保存、調査・研究、教育普及がある。那覇市立壺屋焼物博物館の教育普及活動に、学芸員による展示の解説や出前こども博物館等がある。また子どもたちの学びの手助けをするものとしてパズルや絵本、解説シートといったさまざまな教育普及グッズもある。本論では、そのなかでも今回製作した教育普及グッズ「やちむんトランプ」、「やちむんトランプ かいせつカード」について報告する。

## 1. 目的

那覇市立壺屋焼物博物館には、ゆんたくコーナー（ゆんたくとは沖縄の方言で「話す」の意）というレファレンス室がある。ここでは焼物に関する質問の回答や観光情報の提供を行っている。また常設展示の案内、学校の社会科、総合的な学習での調べ学習において解説なども行うため、小学生の利用も多い。放課後や休日を利用して博物館を訪れる子どもたちも多いのだが、せっかく博物館を訪れてもゆんたくコーナーまでで、館内の見学をせずに帰ってしまう児童や館内の見学をしても、あまり見ずに帰ってしまう子どもたちもいる。

そこで焼物について興味を持ってもらうきっかけ作りとして、今回「やちむんトランプ」、「やちむんトランプ かいせつカード」を製作した。子どもたちに神経衰弱をしてもらい、同じ絵の描かれたトランプがそろったら、「やちむんトランプ かいせつカード」のなかから自分が見つけたトランプと同じ絵の描かれたカードを探してもらう。神経衰弱という遊びをすることで、楽しみながら焼物について学んでもらおうというのがねらいである。自分のひいたトランプが何であったか、どこに置いたのか考えることでその焼物の形や名称が覚えやすくなるのではないか。また「やちむんトランプ かいせつカード」を付属させることで、常設展示における子ども用のわかりやすい解説として、館内を見学する子どもたちの手助けになればと考えた。

きんじょう ゆきの（那覇市立壺屋焼物博物館 教育普及員）

## 2. 「やちむんトランプ」、「やちむんトランプ かいせつカード」について

### 「やちむんトランプ」

焼物の種類10種類、窯道具1種類、技法について4種類の計15種類の絵をトランプに使用した。当館では子どもたちの興味のあるものは何か把握し、教育普及に活用できるようにアンケートを実施している。この15種類には、当館のアンケートにおいて子どもたちが好きな焼物としてよくあげるものや子どもたちに覚えてほしい焼物や技法、普段よく質問に出るもの等を選択した。「やちむんトランプ」、「やちむんトランプ かいせつカード」に使用している絵には、当館学芸員が作成したものが一部含まれている。トランプの種類は以下の通りである。



「やちむんトランプ」



「やちむんトランプ」表と裏

### トランプの種類

30枚（15種類の2セットで作成。）

（焼物）アンダガーミ、アンビン、カラカラ、シーサー、スンカンマカイ、厨子甕、抱瓶、ヒールー、フチュクルビン、嘉瓶

（窯道具）グーチャー

（技法）赤絵（上絵付け）、イッチン、絵付け、線彫



## 「やちむんトランプ かいせつカード」

「やちむんトランプ」で使用している15種類の絵と、その解説文を記載している。カードの表にトランプと同じ絵を使用し、裏返すとその絵についての解説が記載されているという仕組みである。子どもたちには神経衰弱をした後、自分がひいたトランプと同じ絵が描かれているカードを「やちむんトランプ かいせつカード」のなかから探してもらう。自分と同じものを探すという楽しさと、解説を読むことで焼物や技法等について学べるような工夫を施した。



「やちむんトランプ かいせつカード」



「やちむんトランプ かいせつカード」表と裏

## 「やちむんトランプ」の遊び方

「やちむんトランプ」、「やちむんトランプ かいせつカード」をどのような形で使用するのか、以下に示した。

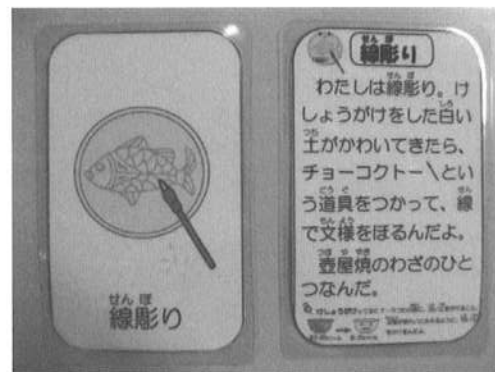
1. 「やちむんトランプ」を使って神経衰弱をしてもらう。



2. 絵がそろったら、「やちむんトランプ かいせつカード」より、自分が見つけたトランプと同じ絵が描かれたカードを探す。



3. 「やちむんトランプ かいせつカード」を裏返すと、描かれた絵の解説が記載されている。



## まとめ

今回、子どもたちに焼物について楽しみながら学べるよう「やちむんトランプ」、「やちむんトランプ かいせつカード」の製作を行った。それぞれ製作して間もないことから、まだ「やちむんトランプ」で遊ぶ子どもたちは少ない。とはいえ、「やちむんトランプ」で遊ぶ子どもたちはとても楽しそうであった。「やちむんトランプ かいせつカード」を読むと、焼物の使用法や技法等を理解し、そこから焼物に興味を持ち、質問をする子どもたちもいた。焼物について子どもたちが興味を示したことで、今回の教育普及グッズ製作の目的を達成できたといえそうである。何よりも興味深かったのは、子どもたちにとって理解するということは、焼物に興味を持ってもらうにあたり、とても重要であるということだ。「やちむんトランプ」、「やちむんトランプ かいせつカード」で遊んだある小学生は、自分が覚えた焼物について母親に説明できるようになっていた。自分が理解できている、説明ができるという喜びが、子どもたちにとってまた新たな興味、意欲をもたらすということが今回の教育普及グッズ製作において

一番の収穫である。

また3、4歳の子どもたちにも遊び方を説明すると、楽しそうに「やちむんトランプ」で遊んでいた。しかし、まだ自分たちで解説を読むということは厳しい。小学生以下の子どもたちにもわかるようなグッズの改善が今後は必要だと感じた。またトランプの枚数を増やす、解説をさらにわかりやすくする等の工夫を重ね、子どもたちからの質問、学校での課題等に対応できるような教育普及グッズ製作をし、子どもたちの学びのきっかけ作りができればと思う。

#### 【参考文献】

- ・大月ヒロ子「子どもにとっての博物館の第一印象……まずはそこから考えてみよう！」（『博物館研究』第44巻 第1号 2009年 1月25日）
- ・北島尚志「『博物館』における子どもの活動！を探る」（『博物館研究』第44巻 第1号 2009年 1月25日）
- ・水藤真『博物館を考えるⅡ——博物館実習とこれからの博物館——』（山川出版社 2001年 10月15日）
- ・北俊夫『博物館と結ぶ新しい社会科授業づくり』（明治図書出版株式会社 2001年 2月）

